

## Walk Times Vol.4 7月号

～二人三脚～



ホームページはこちら↑↑



Instagramはこちら↑  
日々の訪問看護の様子が見れます♪



フェイスブックはこちら↑  
日々の訪問看護の様子が見れます♪

# 心に残る利用者様との取り組みを一挙公開！

## ケース①人工呼吸器をつけた状態でも外出を！ご家族様の想いを叶えたい。

### ・人工呼吸器管理にて長期入院に。退院後も苦難の連続。

現在、高島市内在住で人工呼吸器を利用しながら奥様と自宅療養をされているAさんは、平成30年呼吸不全のため、京都の病院にて気管切開と人工呼吸器の管理が必要となりました。入院中、何度か呼吸器の離脱も試みるも、呼吸苦から精神状態も不安定となり、離脱は困難となりました。更にコロナ禍による面会謝絶が精神状態悪化に追い討ちをかけます。一時は精神科病院も選択肢があると医師から告げられるも、奥様は精神科病院転院で、更に入院期間を延長させたら、退院が今後出来なくなるかもしれないと不安を感じ、入院中の病院でのリハビリを経て退院させる事を決意します。そして懸命のリハビリを続ける事で、何とか令和3年秋に自宅に退院が決まりました。これからの暮らしに期待と不安を抱えながらも、当訪問看護ステーションと市内のもう1箇所の訪問看護ステーションの掛け持ちでリハビリを続けながら、約3年ぶりとなる自宅での暮らしの中で、少しでも自立した暮らしを・・・といった想いで自宅療養を開始されました。

しかし退院後、自宅での暮らしは思ったようにはいかず、精神的に不穏症状から当初はトラブル続発でした。時には自ら人工呼吸器を引き抜くこともありました。近院にレスパイト入院の措置を取っても、結局は危険行為防止の為に、常に奥様は隣に居ないといけないう状況となることもありました。

それでも自宅で粘り強く介護とリハビリを継続することで、徐々に体力向上と、精神状態の安定に繋がることができました。

### ・MIHOミュージアムに行きたい！

そんなある日、訪問看護のケア中、奥様から「ひとつお願いがあるんだけど」と提案を受けた内容に驚きました。何と高島市内から60km以上離れた甲賀市信楽にあるMIHOミュージアムに行きたいとの事でした。正直、担当者はによっては道中のリスクを懸念する声もありました。しかしこれまでの暮らしと現在の身体状況や精神状態を加味して、まずは出来る可能性が何があるのか、利用できるサービスやご本人の体力はどのレベルまで向上すれば実現可能かを考え、各関係機関に企画案と対処方法についてまとめる事から始めてみました。

しかし、当事業所だけではこの計画はどうにもならず、この願いは叶えることが出来ないかと考えることもありました。そこで他事業所のスタッフやケアマネさん、主治医に相談したところ、皆様快く協力していただき、何なら同行してサポートについていただけるといった暖かいご意見をいただきました。その後、一気に企画は加速し、実際にMIHOミュージアムの視察も経て、美術館側からのご協力の連絡と、甲賀市内の病院、草津市内の病院など通行経路内にある医療機関からもご協力の意思がいただきました。そうして、1日旅行のパンフレットをまとめあげ、協力関係者とのミーティングを経て、ご本人とは車の乗降訓練や、車椅子の改良を行い、徐々に企画を前に進める事ができました。

### ・4年ぶりの外出へ！

市内の桜も満開となった4月某日、遂に日帰り旅行の日です。ご本人はエンジ色のお洒落なパンツに映画俳優を思わせるサングラスを身に付け、4年ぶりの外出へ！道中、特にトラブルもなく、無事に美術館に到着する事ができました。そして迎えてくれたのは、東海地方に生まれているご兄弟はじめ、ご親族の方でした。なかなか東海地方から高島市は遠く離れているために、お会いになる機会も無く、入院のお見舞いもコロナ禍による面会制限で出来なかったために、この外出の機会にお休みを取って勢揃いしてくれたとの事でした。

約3時間の再開と昼食、ミュージアム内の散策を経て、自宅にも無事に戻ってくる事ができました。途中には満開の桜同様、とても印象的な笑顔が看護師冥利に尽きるエピソードのひとつでした。

去り際に奥様から「次はまたどこに行こうかしら・・・」とポツリ一言。次回の宿題は一体どんな話がいつ出るのやら・・・少しドキドキしながらも次の目標に向けての利用者様とのリハビリを頑張っています！



旅のしおり作成！



久しぶりのデートを楽しまれていました

## ケース②子どもとの思い出の味を作り、食べたい！

### ・食欲増加と体力向上に向け て・・・「鯉こく」を作りたい！

消化器系の病気による胃管チューブを留置されたBさんは、なかなか食事は喉を通らず、注入食を病院でご家族様と指導を受けて自宅生活を再開しました。しかし、注入食だけでなく、少しでも口から食べる練習もしていたのですが、うまく喉が通らず体力も落ちてきました。

そんな1日を注入食の事をずっと考えている療養生活の中、担当している訪問看護師から何かやりたいことはないか尋ねてみたところ、昔よく母乳が出て、子どもとの思い出の味である「鯉こく」を作って食べてみたいというご希望がありました。「鯉こく」は鯉のアラを使ったお味噌汁で、担当看護師もあまり縁が無かったらしく、最初は知りませんでした。しかしこの患者様にとってのスタミナ食であり、食欲を向上させるために「鯉こく」を作ってみることにしました。

まずは鯉のアラを買いに行くために、市内の鮮魚店に行って事情を説明したところ、とても快く受け入れていただき、何と注文したアラだけでなく、卵など、最近では珍しくなった「鯉こく」作りのためのサービスをたくさんしてくれました！

材料も出揃い、いざ、調理開始。先ほどまでベッドに横になっていた患者様は起き上がるなり、割烹着に身を通し、手慣れた手つきで料理を作り出しました。間もなく「鯉こく」は完成。どうしても病気の都合で料理は少し舐める程度の摂取に留まりましたが、思い出の味を自分で調理から食べていただく機会となりました。



鯉のアラ。たっぷりサービスしてもらいました！！



娘さんと久しぶりに台所に立って調理。割烹着がお似合いです！



完成した「鯉こく」

### ・訪問看護における「食べる」事への創意工夫

病院とは違い、患者様自身に調理をしてもらって食事をとってもらおうといった珍しい試みで、食事が減っていても、自分が作ったものなら食欲を増やすための工夫の一つの選択肢として、とても勉強をさせていただきました。

#### ～スタッフだより～

初めまして、2月に就職しました理学療法士の前田です。年齢：33歳 職業：理学療法士、3学会合同呼吸療法認定士 経験年数：11年 趣味：サッカー、マラソン、ギター、歌、(これから)DIY。

高島に家族4人で引っ越してきたのは古今稀に見る大雪の最中、「これが高島の洗礼か！」と戸惑いながらも皆さんに温かく迎えて頂き、高島の人柄の良さを噛み締めて今日に至っています。

病院と在宅で最も違うことは拠点が病室ではなく各々のご自宅にあること。「ただリハビリをしにくる人(が運動をさせにきた)」だけでなく、「生活に寄り添ってくれる人(がリハビリしてくれた)」を目指して訪問させて頂いています。これからどうぞ宜しくお願い致します！



当事業所利用者様は福祉有償車両無料貸し出し中！遠方へのお出かけや、気軽に買い物にどうでしょう？

※1日自動車保険料とガソリン代は別途負担願います。  
担当：大森まで。

リハビリ訪問看護ステーション Walk

訪問看護 空き情報  
お気軽にお問い合わせください！

曜日	午前	午後
月	△	×
火	△	△
水	△	○
木	休	休
金	○	△
土	△	△
日	休	休

訪問リハ 空き情報  
お気軽にお問い合わせください！

曜日	午前	午後
月	△	△
火	△	○
水	△	○
木	休	休
金	△	△
土	×	△
日	休	休

#### ～Recruit～

一緒に働く看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士を大募集しています！（特にリハビリスタッフ！！）

見学、面接、同行訪問なども随時受付しております！気になる方は、

☎0740-33-7278

✉info@walk-ynwa.com

までご連絡下さい！

現在、↑からのご応募➡就職となれば、支度金も準備させていただいております！！